

分野	福祉	施策	健康			
分野計画名称	まちごと元気！健康せつつ21			行政経営戦略 参照ページ	P85	
施策の展開（大項目）	1 生活習慣病の早期発見・重症化予防					
KPI (指標)	健康寿命					
	推移の方向性	基準値	令和2年度 結果	令和3年度 結果	令和4年度 結果	目標値 (令和7年度)
	増加	男性79.3年 女性83.6年 (平成30年)	男性79.6年 女性83.5年 (令和元年)	男性80.1年 女性83.5年 (令和2年)	—	平均寿命の伸びを上回る延伸
KPI (指標)	悪性新生物SMR（標準化死亡比）					
	推移の方向性	基準値	令和2年度 結果	令和3年度 結果	令和4年度 結果	目標値 (令和7年度)
	減少	男性114.0 女性108.5 (平成25～29年)	—	—	—	100未満
KPI (指標)	脳血管疾患の標準化死亡比【★】					
	推移の方向性	基準値	令和2年度 結果	令和3年度 結果	令和4年度 結果	目標値 (令和7年度)
	減少	男性80.9 女性84.9 (平成25～29年)	—	—	—	現状値より減少
KPI (指標)	心疾患の標準化死亡比【★】					
	推移の方向性	基準値	令和2年度 結果	令和3年度 結果	令和4年度 結果	目標値 (令和7年度)
	減少	男性104.0 女性103.3 (平成25～29年)	—	—	—	100未満

中項目	1 がん検診の推進	分野計画参照ページ	P37
関連する主な事業	令和4年度 の取組実績	分析・考察	
がん検診事業 保健福祉課	<p>・各種がん検診の受診者を増やす取組として集団検診（保健センター）及び個別検診を次のとおり実施した。 【集団健診（保健センター）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■セット健診（健康診査+がん検診）【午前73回、午後22回 ※うち、午前の土日は6回（午後の土日は実施なし）】 ■胃・大腸・肺がん・骨粗しょう症検診【17回 ※うち、土日は5回】 ■胃・大腸がんバス検診【3回 ※うち、土日は2回】 ■乳がん検診【31回 ※うち、土日は5回、一時保育は6回】 ■子宮頸がん検診【13回 ※うち、土日は2回、一時保育は6回】 <p>【個別検診】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■胃がん検診受診医療機関数 1か所 ■大腸がん検診受診医療機関数 1か所 ■肺がん検診受診医療機関数 1か所 ■乳がん検診受診機関数 5か所 ※令和4年7月から乳がん検診の医療機関を3か所増した。 ■子宮頸がん検診受診機関数 32か所 ■前立腺がん検診受診機関数 31か所 <p>・各種がん検診を実施し、受診率は次のとおりであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■胃がん 受診者数1,875人、受診率8.1%（前年度比+38人、+2.0%） ■大腸がん 受診者数3,408人、14.7%（前年度比+76人、+2.3%） ■肺がん 受診者数3,771人、16.3%（前年度比+166人、+4.6%） ■乳がん 受診者数1,423人、受診率19.5%（前年度比+8人、+0.6%） ■子宮頸がん 受診者数2,491人、受診率27.3%（前年度比-41人、-1.6%） ■前立腺がん 受診者数995人、受診率13.1%（前年度比+98人、+11.2%） <p>※各数値は速報値（確定時期：翌年4月）</p>	<p>・コロナ禍で減少していた受診率は、回復傾向にあるものの、若い世代のがん検診の受診率は低く、その要因は実施場所が限定的であることが考えられるため、検診機会を拡充していくとともに、引き続き、ホームページや広報紙、健康づくり年間日程表等でがん検診について周知していく必要がある。</p> <p>・乳がん検診の医療機関を増やしたことで、受診者は増えた。</p> <p>・集団健診において、過去の予約実績に基づき「実施日の変更」及び「実施回数」を増やしたことで、受診者数が増えた。しかし、予約者数が少ない時期もあるため、時期に合わせて未受診勧奨はがきを送付することも必要である。</p>	

中項目	2 特定健診・特定保健指導の推進	分野計画参照ページ	P38
関連する主な事業	令和4年度 の取組実績	分析・考察	
特定健康診査等事業 国保年金課	<p>・特定健診の受診者数は3,401人（前年度比-275人）で、受診率は31.4%（前年度比+3.4%）であった。 （内訳）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■保健センターでの集団健診 2,176人（前年度比-21人） ■医療機関での個別健診 885人（前年度比-191人） ■新島飼公民館での出張集団健診 105人（前年度比-44人） ■別府コミュニティセンターでの出張集団健診 85人（前年度比-30人） ■その他（職場健診データ提供・人間ドック）150人（前年度比+11人） <p>・特定保健指導については、対象者469人の内、248人（52.8%）に電話や面談等で指導した。（動機付支援175人・積極的支援73人）</p> <p>※各数値は速報値（確定時期：11月）</p>	<p>・特定健診の受診率は、前年度比では増加しているが、新型コロナウイルス感染症拡大前と比較すると減少しているため、受診率向上につながる取組等を検討していく必要がある。</p> <p>・出張集団健診は、一定のニーズがあるため、引き続き実施する方向で検討する。</p> <p>・特定保健指導の実施率は府内でも上位（令和3年度法定報告：6位）であり、要因は面談（プレ指導）の実施等と考えられるため、引き続き実施率向上に向けた取組を進める。</p>	

<p>保健事業 国保年金課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診未受診者12,160件架電し、384人の予約につなげた。 ・ナッジ理論に基づき、対象者の特性に合わせて行動変容を促す勧奨通知を2回（各5,000通）送付し、延べ5,850人のうち、2,295人の受診（39.2%）につなげた。 ・特定保健指導未利用者対策として、次の取組を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ■健診当日の面談（プレ指導）を実施し、107人が参加した。 ■健診後に健診結果説明会を30日開催し、102人が参加した。 ■面談（プレ指導）及び健診結果説明会の不参加者に随時、電話で利用を勧奨した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の受診率は、前年度比では増加しているが、新型コロナウイルス感染症拡大前と比較すると減少しているため、受診率向上につながる勧奨の取組等を検討していく必要がある。 ・特定保健指導の実施率は府内でも上位（令和3年度法定報告：6位）であり、要因は面談（プレ指導）の実施等と考えられるため、引き続き実施率向上に向けた取組を進める。
-----------------------	--	--

中項目	3 循環器疾患対策の推進		分野計画参照ページ	P39
関連する主な事業	令和4年度 の取組実績		分析・考察	
<p>健康せつつ21推進事業 保健福祉課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健診の結果に同封する受診勧奨案内のデザインを、医療機関へ受診してもらえそうな内容に変更した。 ・健診の結果において、有所見（医療機関受診勧奨値の方）であった50人に対し、結果送付後、保健師等による電話や文書送付、訪問で医療機関への早期受診勧奨を実施した。 ・また、有所見50人のうち、8人を医療へつなげ、生活習慣の改善を図った。 ・11月の健康づくり推進月間に、循環器疾患のリスク要因である「メタボリックシンドローム」に関する啓発動画を配信し、視聴回数は1,424回であった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・当該年度に有所見であった方に対し、引き続き保健師や栄養士による医療機関への受診勧奨を徹底するとともに、前年度に有所見であり医療機関未受診の方には、次回の健診時に医師から受診勧奨を行う等、取組を強化する必要がある。 	

中項目	4 糖尿病対策、慢性腎臓病(CKD)対策の推進		分野計画参照ページ	P41
関連する主な事業	令和4年度 の取組実績		分析・考察	
<p>健康せつつ21推進事業 保健福祉課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健診の結果に同封する受診勧奨案内のデザインを、医療機関へ受診してもらえそうな内容に変更した。 ・健診の結果、血糖の有所見者（21人）に対し、保健師等による電話、文書送付、訪問による受診勧奨を行った。これにより、医療への受診につながった者は9名であった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・当該年度に有所見であった方に対し、引き続き保健師や栄養士による医療機関への受診勧奨を徹底するとともに、前年度に有所見であり医療機関未受診の方には、次回の健診時に医師から受診勧奨を行う等、取組を強化する必要がある。 	

分野	福祉	施策	健康	
分野計画名称	まちごと元気！健康せつつ21		行政経営戦略 参照ページ	P85

施策の展開（大項目）	2 生活習慣の改善					
KPI (指標)	健康寿命					
	推移の方向性	基準値	令和2年度 結果	令和3年度 結果	令和4年度 結果	目標値 (令和7年度)
	増加	男性79.3年 女性83.6年 (平成30年)	男性79.6年 女性83.5年 (令和元年)	男性80.1年 女性83.5年 (令和2年)	—	平均寿命の延びを上回る延伸
KPI (指標)	悪性新生物SMR（標準化死亡比）					
	推移の方向性	基準値	令和2年度 結果	令和3年度 結果	令和4年度 結果	目標値 (令和7年度)
	減少	男性114.0 女性108.5 (平成25～29年)	—	—	—	100未満
KPI (指標)	日常生活で歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合					
	推移の方向性	基準値	令和2年度 結果	令和3年度 結果	令和4年度 結果	目標値 (令和7年度)
	増加	男性60.2% 女性57.4%	男性54.8% 女性58.9%	男性55.5% 女性57.3%	—	男性65.0% 女性62.0%

中項目	1 栄養・食生活		分野計画参照ページ	P42
関連する主な事業	令和4年度 の取組実績		分析・考察	
健康せつつ21推進事業 保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・食育の日（毎月19日）に、ホームページ「食育コラム」にて食育に関する情報を発信するとともに、広報紙においても、8月号に食育に関する特集号を掲載し、市民に広く周知した。 ・7月にクックパッドの公式キッチンを開設し、LINEでの情報発信や各種イベントでのチラシ配布により周知した。 ・地場産物を使用したレシピや離乳食レシピなど31品を公開し、総アクセス件数は89,715件であった。 ・公式キッチンを開設したことを更に周知するため、チラシを作成し、健康まつりや秋フェス等のイベントで配布した。 ・こども園や小中学校と連携し、「減塩」や「よく噛む」といったテーマに見合う共通食材を用いた給食を提供し食育に取り組んだ。 		<ul style="list-style-type: none"> ・初年度では開設したことについての広報に力を入れたが、まだまだ認知されていないことを想定し、引き続き、認知度向上のため、チラシを活用しての広報活動を行う必要がある。 	

中項目	2 運動・身体活動、社会環境		分野計画参照ページ	P44
関連する主な事業	令和4年度の取組実績	分析・考察		
健康せつつ21推進事業 保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・「摂津みんなで体操四部作」などの普及啓発として、地域の高齢者が集うリハサロンに体操の実演を行った。 ・ホームページに体操の動画を公開するとともに、DVD・CDを保健福祉課窓口で60枚無料配布した。 ・11月の健康づくり推進月間に合わせて、運動や身体活動といった健康づくりに関連する動画を2本（ウォーキングの効果、ウォーキングコース&健康器具）配信し、視聴回数は延べ2,367回であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における外出等活動の自粛が要因で、高齢者の体力・運動機能の低下がうかがえる。 ・高齢者が集う地域ごとで実施するリハサロンを活用し、引き続き、「摂津みんなで体操四部作」などの普及啓発を行うとともに、運動不足解消そして、フレイル予防に取り組む必要がある。 ・YouTubeによる動画配信に加え、市役所設置の広告付き窓口案内システムや公共施設設置のデジタルサイネージ等において配信し、市民に広く周知啓発を行う必要がある。 		
まちごとフィットネスヘルシータウン事業 保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・うきうきせつつウォーキングを7回（前年度比+4回）開催し、288人（前年度比+122人）が参加した。 ・歩くことでポイントを獲得し、参加賞や抽選での商品があたる健幸マイレージを実施し、新規参加（登録）者が488人（前年度比+35人）で、事業開始から合計2,959人の参加（登録）者となった。 ・6か月以上のデータ未送信者（登録者のうち健幸マイレージを活用していない者等）を抽出し、継続意向の案内はがきを送付した。継続意向の返信がなかった者（約800名）は規約に則り、退会手続きを年度末に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナと共存しながら、感染症対策を講じながら、取り組むことで開催回数を増加。 ・引き続き、健康づくりを推進するためウォーキングイベントの実施に取り組むとともに、10か所のウォーキングコース及び108か所の健康遊具の利用促進に取り組む必要がある。 ・健幸マイレージの新規参加（登録）者は前年度より増加しているが、若年世代の参加者が少ない状況。また、若年世代の参加者ではアプリ利用者が多いが、歩数データ送信率が低い状況。 ・アプリ利用の仕方などの周知強化に取組む必要がある。 		

中項目	3 休養・睡眠		分野計画参照ページ	P45
関連する主な事業	令和4年度の取組実績	分析・考察		
健康せつつ21推進事業 保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者が集うリハサロンで、保健師が睡眠に関する講話を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、リハサロンやイベント、そして動画配信等により休養・睡眠の必要性について啓発していく必要がある。 		

中項目	4 こころの健康		分野計画参照ページ	P46
関連する主な事業	令和4年度 の取組実績	分析・考察		
健康せつつ21推進事業 保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・こころの健康に関する相談窓口について、ホームページに掲載するとともに、9月の自殺予防週間と3月の自殺対策強化月間に合わせて、広報紙に掲載し周知した。 ・ゲートキーパー（※）のリーフレットを作成し、自殺予防週間に民生委員に130部配布するとともに、ホームページに掲載した。 （※）自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができる人のこと ・3月の自殺対策強化月間には、こころの不調や相談窓口に関するチラシを市内各自治会に回覧した。 ・保健所と連携し、市役所で月に1回、精神科医師による「こころの健康相談」の機会を設け、個別ケースに紹介した。 ■市への相談件数：4件（前年度比+3件） ・こころの健康相談についても活用可能な相談対応シートを作成し、課員に共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こころの健康については、引き続き、相談体制の確保をしたうえで、相談窓口の案内をホームページや広報紙にて周知・啓発していく必要がある。 ・ゲートキーパーのより効果的な啓発を目的に、紙面上のみではなく実地的な内容のものを行っていく必要がある。また、摂津市の自殺者の特徴として高齢者が多いため、高齢者に関わる方にゲートキーパーについて啓発していく必要がある。 ・こころの健康に関する相談はいのちに関わる案件であるため、引き続き、相談対応シートを活用や案件発生時に課内で協議を行いながら、迅速に適切な相談先へつなげられるよう対応していく必要がある。 		

中項目	5 喫煙		分野計画参照ページ	P48
関連する主な事業	令和4年度 の取組実績	分析・考察		
健康せつつ21推進事業 保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・肺がん検診や特定健診時、母子健康手帳交付時等において、喫煙者に対して禁煙外来の紹介や禁煙方法の助言等を行うとともに、「世界禁煙デー」や「禁煙週間」に合わせて広報紙やホームページにおいて、禁煙に関する記事を更新し、新型たばこ等の新たな情報も周知啓発を実施した。 ・他市での取組みを参考とするため、吹田市で実施していた「スモークライフスタ」に参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取組みを継続して実施するとともに、禁煙を希望する市民に対して、引き続き情報提供等を実施する。 ・また、路上喫煙禁止及び環境美化推進地区の周知啓発に取組んでいく。 		

中項目	6 飲酒		分野計画参照ページ	P49
関連する主な事業	令和4年度 の取組実績	分析・考察		
健康せつつ21推進事業 保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページにおいて、アルコールを含めた依存症に関するページを作成した。 ・11月の広報紙において、アルコール関連問題啓発週間の記事を掲載し、市民に広く周知した。 ・アルコール依存症に関する相談窓口件数は以下のとおり。 ■相談件数1件（前年度比-1件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、適度な飲酒に関する情報発信を実施し、こころの健康や生活習慣病のリスクを高める飲酒の防止等を働きかける。 		

中項目	7 歯と口の健康		分野計画参照ページ	P50
関連する主な事業	令和4年度の取組実績	分析・考察		
歯科健康診査事業 保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・40歳以上の市民を対象に成人歯科健診を実施し、2,782人（前年度比-47人）が受診した。また、受診が困難な高齢者を対象に訪問歯科健診を実施し、28人（前年度比-8人）が受診した。 ・健診未受診者に対して、ハガキによる受診勧奨を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受診率は新型コロナウイルス感染症流行前の受診率まで回復しているが、前年度より健診受診者が減った。引き続き、健診受診に繋がる啓発活動に取り組む。 		
乳幼児健康診査事業 出産育児課	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児歯科健康診査を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ■健診・受診率：1歳6か月児健康診査 97.6%（前年度比-0.8%） 2歳6か月児健康診査 93.4%（前年度比+6.0%） 3歳6か月児健康診査 97.1%（前年度比+2.1%） ・虫歯のない幼児(3歳児)の割合は90.5%（前年度比+1.2%）となっている。 ・妊婦歯科健診を実施し受診率は43.1%(前年度比+0.4%)であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各歯科健診を実施するとともに受診勧奨を行う。 		

中項目	8 母子保健		分野計画参照ページ	P51
関連する主な事業	令和4年度の取組実績	分析・考察		
母子健康診査事業 出産育児課	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦一般健康診査の受診券14回（12万円分）を妊娠届提出時に684件（前年度比-94件）配付した。 ・乳幼児健康診査を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ■健診・受診率：4か月児健康診査 96.6%（前年度比+0.4%） 1歳6か月児健康診査 97.6%（前年度比-0.8%） 3歳6か月児健康診査 97.2%（前年度比+2.2%） ・未受診者に対し、個別通知や戸別訪問を行い、受診勧奨を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、乳幼児健康診査を実施するとともに、妊婦一般健康診査の受診券を配付する。 ・妊娠届出時に健診の必要性について、保健師もしくは助産師から説明するとともに、引き続き感染症対策を行い受診しやすい環境づくりに努める必要がある。 ・引き続き、受診勧奨を実施する。 		
子育て世代包括支援事業 出産育児課	<ul style="list-style-type: none"> ・プレママサロン（※）を12回実施し、延べ96人（前年度比-13人）が参加した。 （※）子を持つ親となる方を対象とした、母親の身体についてや、赤ちゃんについての講座 ・生後4か月までの新生児633人（前年度比-29人）を対象に「こんにちは赤ちゃん訪問」を実施した。 ・健康育児相談を保健センターにおいて12回実施し、延べ166人（前年度比-37人）が参加した。 ・母子健康手帳交付時に、保健師・助産師による全数面接684件（前年度比-94件）を実施した。 ・産前産後ヘルパー制度の利用が15世帯（前年度比-5世帯）あった。 ・産後ケア制度の利用が、宿泊型29世帯（前年度比+18世帯）、デイサービス型11世帯（前年度比+9世帯）、訪問型13世帯（令和4年度新規）あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレママサロンは、先輩ママパパや赤ちゃんと直接触れ合い、体験談に基づいたアドバイスが得られているため、引き続き実施する。 ・引き続き、助産師や保健師によるこんにちは赤ちゃん訪問及び全数面接を実施する。 ・引き続き、健康育児相談を実施する。 ・産前産後ヘルパー制度及び産後ケア制度は令和2年度から実施する制度であるが、サービスを拡充していることも含めて、赤ちゃん訪問等の機を捉えて周知していく必要がある。 		

分野	福祉	施策	健康	
分野計画名称	まちごと元気！健康せつつ21		行政経営戦略 参照ページ	P85

施策の展開（大項目）	3 健康・医療のまちづくり					
KPI (指標)	健康寿命					
	推移の方向性	基準値	令和2年度 結果	令和3年度 結果	令和4年度 結果	目標値 (令和7年度)
	増加	男性79.3年 女性83.6年 (平成30年)	男性79.6年 女性83.5年 (令和元年)	男性80.1年 女性83.5年 (令和2年)	—	平均寿命の伸びを上回る延伸
KPI (指標)	心疾患の標準化死亡比【★】					
	推移の方向性	基準値	令和2年度 結果	令和3年度 結果	令和4年度 結果	目標値 (令和7年度)
	減少	男性104.0 女性103.3 (平成25～29年)	—	—	—	100未満

中項目	1 病診連携		分野計画参照ページ	—
関連する主な事業	令和4年度 の取組実績		分析・考察	
健康せつつ21推進事業 保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・国立循環器病研究センターと摂津市医師会で、スムーズな循環器疾患の連携体制についての意見交換を行った。 ・11月に済生会吹田病院と共催で、「がん」をテーマとした市民公開講座を実施し、49人（前年度比±0人）が参加した。 ・済生会吹田病院との連携事業を他課でも実施できるよう体制を整備し、高齢介護課の介護認定審査会委員全体研修会での講師としてのご講演や、子育て支援課の学童指導員研修での講師派遣につなげた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・済生会吹田病院との共催による市民公開講座の参加者数を増加するため、周知啓発に取組む必要がある。 ・済生会吹田病院と健康に関する連携事業を拡充し、庁内各課での取り組みを展開できた。引き続き、連携事業に取り組んでいく必要がある。 	

中項目	2 地域医療の向上		分野計画参照ページ	—
関連する主な事業	令和4年度 の取組実績		分析・考察	
健都推進事業 保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官民連携プラットフォーム構築支援について、健都ヘルスサポーター制度により会員になった方を対象に地域実証を計4回実施した。延べ約400人が健都ヘルスサポーターの会員となり、地域実証に参加されたことで、新たな健康・医療のサービスの創出につながった。 ・国立循環器病研究センターと脳卒中後のフレイル予防に資する訪問事業の取り組みを1月から開始したが、対象者は0人であった。 ・国立健康・栄養研究所の移転を契機に、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所と連携協定を締結した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・イベントに地域実証を合わせて行ったことで、周知につながり、新たなサポーターの獲得につながるとともに、会員数は1,000人を超えた。今後は、産学が地域実証を積極的に活用できるような仕組み作りが必要である。 ・健都ヘルスサポーター制度について、広報紙にて改めて周知することに加え、健都に関わるイベント以外のイベント（健康まつり等）においても、ヘルスサポーター制度のチラシを配布し周知啓発に取り組む。 ・脳卒中罹患後、急性期から回復期、社会復帰までの一連の支援の流れを、地域において実施する準備ができた。対象者が判明次第、訪問事業に取り組む。 ・連携協定を基に、国立健康・栄養研究所と健康づくりの取組みを進める必要がある。 	

中項目	3 感染症予防		分野計画参照ページ	-
関連する主な事業	令和4年度の取組実績	分析・考察		
感染症予防事業 保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者インフルエンザ、高齢者肺炎球菌、風しん（5期）の予防接種事業を実施し、接種人数は次のとおりであった。 ・高齢者インフルエンザについては、大阪府の新型コロナウイルス感染症拡大期におけるインフルエンザワクチン定期接種緊急促進事業により取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ■インフルエンザ 13,463人（前年度比+860人） ■高齢者肺炎球菌 561人（前年度比-40人） ■風しん(5期) 116人（前年度比+66人） ・感染拡大状況に応じて、ホームページや広報紙で、新型コロナウイルス感染症の予防啓発を行った。 ・新型コロナウイルスワクチン3回目接種を継続して実施するとともに、高齢者等の発症・重症化予防及び感染拡大防止のため、4回目接種を開始した。また、オミクロン株対応ワクチンによる接種及び乳幼児（生後6か月～4歳）に対する接種を開始した。 ・新型コロナワクチンの接種率は、以下のとおりであった。 <ul style="list-style-type: none"> ■1・2回接種 12歳以上：88.7% 5～11歳：10.3% ■3回接種 12歳以上：69.4% 5～11歳：3.8% ■4回接種 12歳以上：42.6% ■5回接種 12歳以上：22.4% ■乳幼児接種（1回目）生後6か月～4歳：0.03% ※3回接種以降はオミクロン株対応ワクチン接種も含む	<ul style="list-style-type: none"> ・風しん（5期）については、令和6年度までのため、予防接種の終了に向けた周知啓発を実施実施していく。 ・国の方針に基づき、市においても新型コロナワクチン接種を継続して実施する。 		
予防接種管理事業 出産育児課	<ul style="list-style-type: none"> ・主に乳幼児期に接種するA類定期接種（※）について、出産届者全員に対し、保健師・助産師による対面での個別接種勧奨を実施した。 ※接種の努力義務が課されているもの	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各種健診や講習会等で予防接種の必要性を周知し、接種勧奨を行っていく必要がある。 		